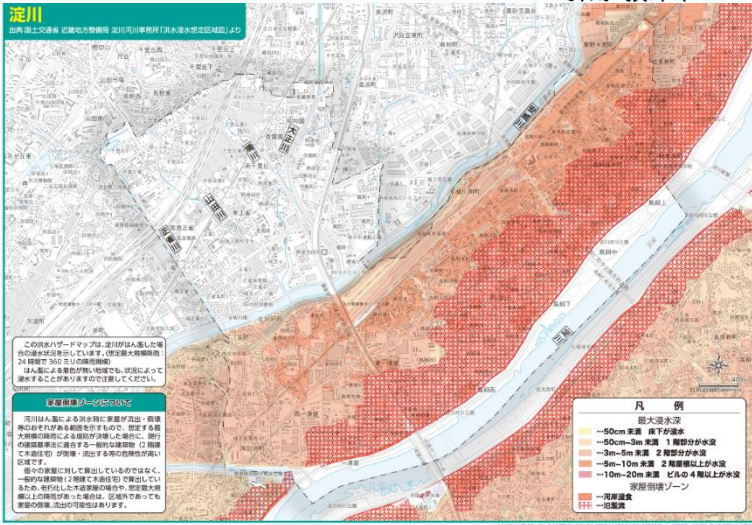


※これは摂津市議会議員松本あきひこの市政活動を報告するものです。

安心をどう市民へ提供するのか？ 水害時の 広域避難先の確保に向けて

▶ 淀川氾濫時、どこへ避難されますか？ (2021年第3回定例会質疑より) 引用:摂津市 HP

市は、淀川氾濫等において、まずは当該地域の方々が「逃げる」、**広域避難**することを計画・検討しています。(右図一例・摂津市内の淀川氾濫水域)



避難先としては、親類等の縁故やホテル・旅館等、市内高台避難所、そして市が設定する市外避難所があります。市内避難所の収容人数に限界があり、大人数を収容する市外避難所として万博記念公園が検討されているものの**確定していない状況**です。

いつ水害が起きるか分からない中で、事務協議も大切ですが、まずは少しでも早く避難場所を確定することが、市民の安心につながるものとして、市長へ対応を急ぐよう要望しています。



▶ 広域避難に備え道路網整備の推進へ

広域避難時に重要なのは、道路ネットワークです。市外へとスムーズに移動するために**不可欠なインフラ整備も推進**しています。このことは有事だけでなく、平時においても市民生活向上に繋がります。

避難場所の確定とそれに至るルートを決め、大阪府の協力を得ながら着々と道路整備を進めていくよう提言しています。(2021年第3回定例会より)

▶ 地震対策も並行して推進すべき

南海トラフ大地震や上町断層帯地震など大地震での災害対応も、市民の命を守るため平時から進めていかなければなりません。2021年10月議会などで、以下の項目で整備を進めるよう要望しています。

1. 災害関連死を防ぐための避難所となる**小中学校体育館へのエアコン設置等**の環境整備
2. **防災サポーターと連携**した避難所運営の準備と訓練の実施
3. 市役所での**災害対策本部訓練**の充実と、有事の庁内連携の実施など (2021年第3回定例会質疑などより)

大災害から命を守り、市民の方が安心して住めるまちづくりを築いて参ります。



プロフィール 松本暁彦 (まつもとあきひこ) (摂津市議 2期目)

●昭和58年生まれ ●関西大倉高校卒業●香川大学農学部卒業●陸上自衛隊 (退職時: 1等陸尉)、東日本大震災・PKO (ハイチ) で派遣活動に従事●衆議院議員とかしきなおみ事務所●MBA取得 (関西学院大学経営戦略研究科卒業) ●消防団●大阪防衛協会●座右の銘 時かぬ種は生えぬ

なぜ防げなかったのか？ 児童虐待死事件での市の再発防止の取り組み

着々と改善が進む 学力向上への取り組み

安心をどう市民へ提供するのか？ 広域避難先の確保に向けて

地域を守り、
未来を育む

摂津市議会議員

松本あきひこ

通信 Vol.7

令和3年
11月発行



元自衛官

ご挨拶

2021年9月19日の摂津市議会議員選挙では温かいご支援を賜り、**2期目への当選**を果たすことができました。皆様のご期待に応えるべく議会において、市民生活向上にしっかりと取り組んで参ります。

さて、2期目につきましては、「**地域を守り、未来を育む**」をモットーとして、**元自衛官**の経験を活かし、市民の命・地域を守る政策に取り組んで参ります。具体的には、様々な大災害に対応できる防災力の充実、また犯罪抑止の防犯の取り組みなど、安全安心がまちづくりの根幹であるということを踏まえ、国を守ってきたその経験を市政に活かして参ります。

また、**未来を育む政策**である子育て支援、教育にも力を入れて取り組んで参ります。多くのご要望がある学力向上への取り組み、そして様々な子育て支援の充実を図り、将来世代を育みます。

「市民の想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。」という文言のように、しっかりと想いを実現すべく取り組んで参りますので、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



なぜ防げなかったのか？

児童虐待死事件での市の再発防止の取り組みについて

▶ いつでも会える、

過剰な安心感という指摘。(2021年第3回定例会質疑などより)

市は、おりとちゃんの母親に対して2018年の転入時から事件前までに家庭訪問38回を含む91回の面談を行っていました。(母親にネグレクト・育児放棄の疑いがあったため) また母親との信頼関係構築にも取り組んでいました。そして市の判断とその対応については、母親との面談内容でほぼ決まりました。これが会えていることからくる過剰な安心感があったのではと指摘されています。



▶ 情報を活かせず。(2021年第3回定例会質疑などより)

おりとちゃんが虐待を受けている、母親がパートナーと同居しているという情報提供者からの相談が、市の複数の部署になされました。市はその後、母親に面談を行いました。母親が同居・虐待を否定したため、一時保護等にはならず、情報は活かされませんでした。

▶ 様々な課題が明らかに。(2021年第3回定例会質疑などより)

1. 担当職員の数は適切であったのか？
担当職員1人あたりの相談対応件数が約90件と児童相談所の一人当たり60件と比べ多く、相談対応において物理的限界があったのではないかと指摘されています。
2. 担当職員の実績・経験は十分か？
担当職員の経験年数も浅く、様々な複雑な事案に適切に対応できるのか疑問視されました。
3. 関係機関との連携は適切だったのか？
吹田子ども家庭支援センター(児童相談所)は、市の方針を容認していましたが、協議が形骸化していなかったのか、また警察との情報共有等も課題として挙げられました。

▶ 再発防止の取り組みについて (2021年第3回定例会質疑などより)

悲劇を繰り返さぬよう上記の課題を踏まえ、市は相談体制の質と量の強化を行っています。

1. 担当課職員を1名増員し、専門家であるスーパーバイザー2名を確保
2. 市の虐待対応ネットワークの強化
3. 児相との協議体制の在り方や、警察との情報共有について協議を進めている。
4. 大阪府検証専門委員会への積極的な協力(委員会報告は2022年1月予定)

私も虐待につながる孤立家庭を防止するための地域共育も含め、本事件後の対応強化について提言を引き続き行ってまいります。

(詳細はブログへ)

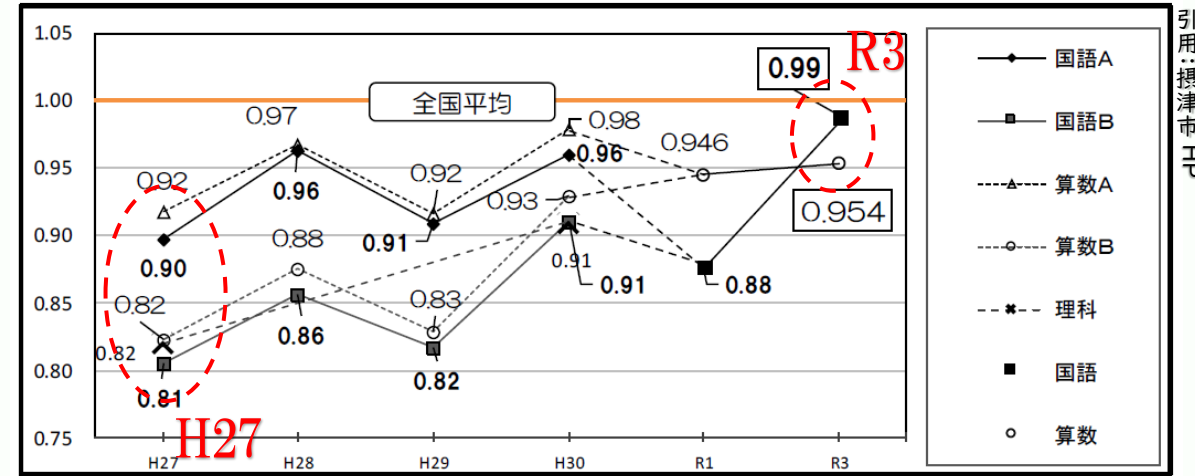


悲劇を繰り返さぬよう児童虐待防止策向上に努めます。



着々と改善が進む、

学力向上の取り組みについて



【小学校 対全国平均経年比較表】 令和3年度 全国学力・学習状況調査 調査結果(公立小中学校)

▶ 過去最高の成績

令和3年度の全国学力・学習状況調査(上表)の本市結果は、以前に比べ大きく改善しています。具体的には、小学校国語、中学校数学においては過去最高、小学校算数、中学校国語では、過去2番目の結果となりました。



▶ その要因として (2021年第3回定例会質疑より)

その要因として教育委員会が挙げているのが、以下の3点です。

1. 校長の指導のもと学校全体で授業研究を中心とした学力向上の取り組みを進めてきた。
2. コロナ禍であっても、できる限り学びの保障を行ってきた。
3. 教育委員会として各学校へ重点的に取り組む内容を「めざす学校の姿」とし、「キャリア教育」や「魅力ある学校づくり」に取り組んだ。(子どもたちの意欲向上につながり、成果として見られた。)

▶ 更なる取り組みへ

私は子ども達のやる気スイッチの施策などの教育施策を議会で提言してきました。教育委員会もそれを受けてキャリア教育推進委員会を立ち上げるなど取り組みました。しかし、まだ全国平均に達していない状況であり、下記の1~3のさらなる取り組みを提言しています。(2021年第3回定例会などより)

1. 家庭学習の推進・・・授業外での学習時間の向上と環境の提供(学習時間増が必要)
2. 読書活動の推進・・・読書時間の向上、学校の朝読の推進(読書と成績に関連あり)
3. 就学前教育の推進・・・小1プロブレムの解決、保幼こ小の連携促進(学力基盤力を養う。)

学力も含め将来を担う子ども達の生きる力を育て参ります。

